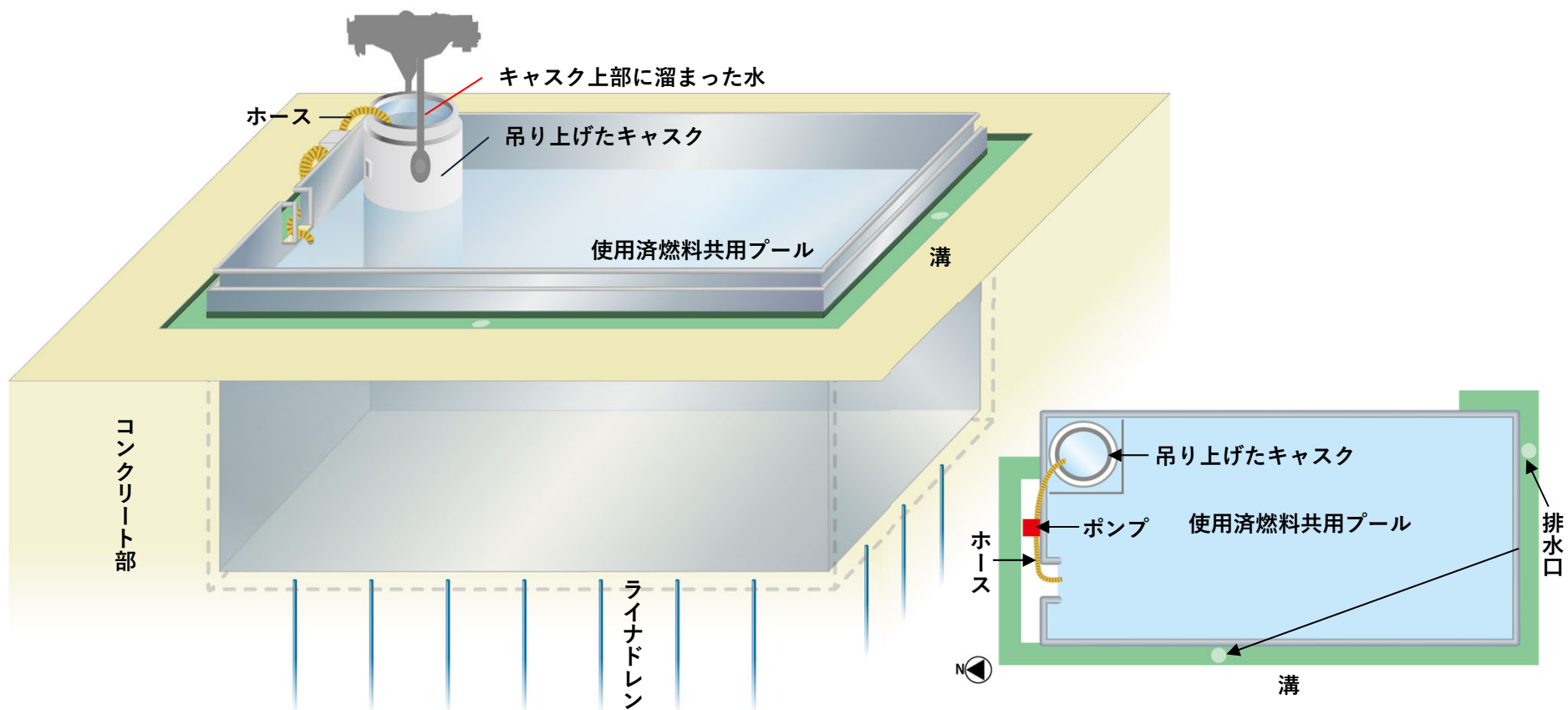


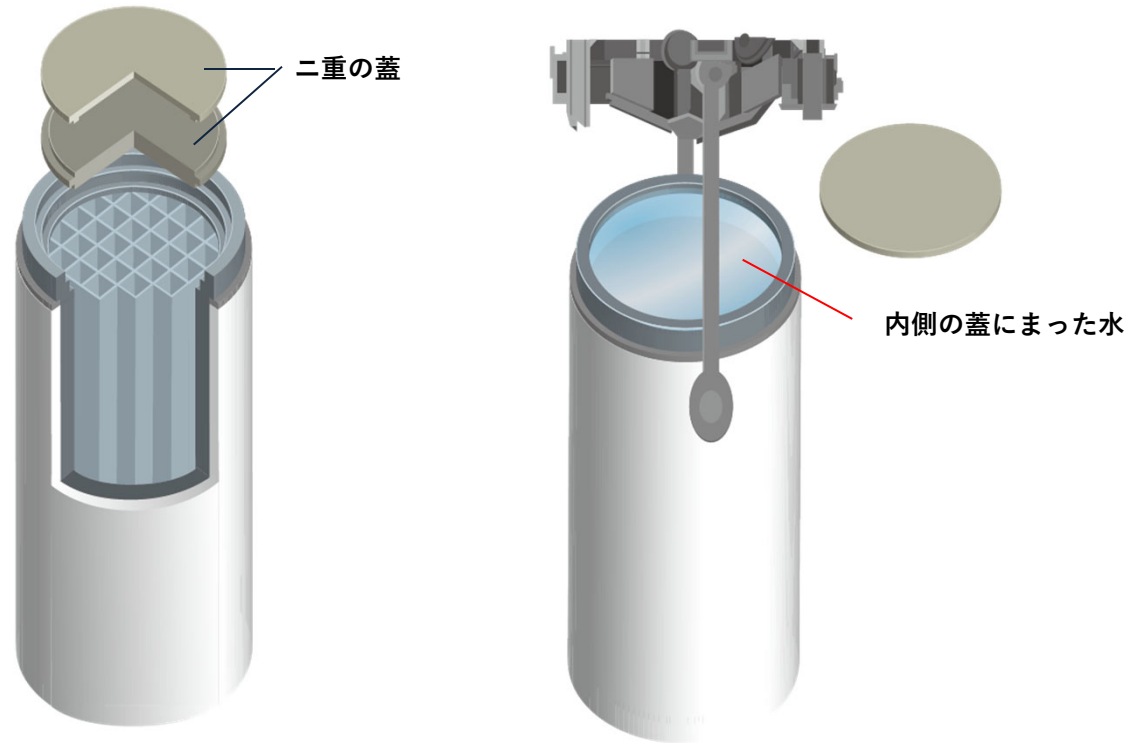
福島第一原子力発電所 使用済燃料共用プールライナドレン流量高の警報発生について（2025年6月10日発生）

< 参 考 資 料 >
2025年6月12日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

- 2025年6月10日午前9時50分頃、使用済燃料共用プールライナドレン（プール水漏えいの可能性を検知するための配管）において、流量高の警報が発生し、ライナドレン配管に液体が流れていることを確認しました。
- 共用プールでは同日、使用済燃料を格納した乾式キャスクの搬出に向け、キャスク上部に溜まった水をホースで吸引して共用プールに戻す作業をしていました。現場を確認したところ、出口側のホース先端部がプール外にずれ、プール周辺の溝に水が流れた跡があることを確認しました。
- プール水位に有意な変動はなく、ライナドレン配管の流量は時間の経過とともに減少しました。警報発生の原因は、ホース先端部から出た水（プール水とキャスク除染用ろ過水の混合水）がプール周辺の溝を通じて、ライナドレンに流れ込んだことによるものと推定しており、プールの健全性に問題はないと判断しました。
- ライナドレン配管を流れた液体は建屋内ピットに排水される仕組みとなっており、周辺環境への影響や作業員の身体汚染はありません。
- ホース先端部がプール外にずれたのは、ホースの固定が不十分だったことが原因と考えています。
- ホースの固定方法については、従来のひもによる固縛から、固定金具を用いた方法に変更する等、再発防止策を講じています。
- 今回の事案の発生後、当該キャスクは共用プール内のキャスクピットに戻していますが、今後、準備が整い次第、オペフロのキャスクピットへの移送準備を進める予定です。
- 引き続き、安全を最優先に作業を進めてまいります。

(参考) 共用プールに水を戻す作業の配置イメージ





乾式キャスクは二重蓋構造で、プール内で内側の蓋を閉めた状態で引き上げると、上部には水が溜まる構造となっています。